戦争に協力しない！させない！

練馬アクション

PDF版第 10 号　2026年 3 月号

2 月10 日発行



ヘイトスピーチ許さない・練馬「成人式」アピール（1 月 12 日）

〔特集:今こそ高市にもトランプにもNO！を〕

【巻頭言】 衆院選 自民、単独でも絶対安定多数どころか三分の二議席獲得

だからこそ、高市にNO!を 増税大軍拡予算反対！訪米・トランプとの首脳会談を許すな！ （文責:池田五律）

■絶対安定多数・三分の二議席獲得

２月８日の衆院総選挙で、常任委員長ポストを独占した上で、各委員会で過半数を確保できる絶対安定多数を（261）どころか、参院が否決した法案を衆院で再可決することができ、憲法改正発議も可能な３分の２（310）議席を超える316議席を、戦後初めて、獲得した。維新も含む与党議席は354。参院では少数であるため連立は維持するだろう。それに維新は高市政権のアクセル役を果たすと言っている。国民の取り込み工作も続けるだろう。

■中道・立憲の危機

敗北した中道は早くも解体の危機。旧公明は21から28へと議席を伸ばした一方、旧立憲はたったの21議席。大物議員も多くが落選し、風頼りに終始してきた立憲そのものの解体もあり得る。

■消費減税検討「国民会議」の罠

消費税減税について検討する「国民会議」を高市は提唱しているが、中道というより公明の案である国民基金案も俎上に挙げられるだろう。プーチンが軍事費捻出のために取り崩している国民福祉基金に類するものが設立され、運用は民間に委ねるといったことになりかねない。それはともかく、検討過程自体が、公明再取り込みといった中道、参院の立憲・公明へのゆさぶりに使われる可能性がある。消費税減税に批判的・懐疑的な有権者の受け皿となった「みらい」の現役世代の社会保障負担削減論も考慮されるだろう。即ち、社会保障、殊に高齢者への社会保障削減が消費税減税とセットに打ち出されるかもしれない。「嫌老社会」化にも注意が必要だ。

■参政党の定着とイスラエル化のおそれ

参政党が、国政政党として定着したことも見逃せない。支持者の高齢化が進む公明、共産、賞味期限切れ・山本太郎頼りの「れいわ」の没落と対照的である。差別排外主義政党の定着は、より右寄りを競い、より右に引きずられるイスラエル化への警戒が必要だ。

■高市勝利をもたらしたもの－強いリーダー・強い国

高市勝利は、選挙戦術的には、先制的抜き打ち解散による主導権掌握、争点潰し・失点スルー、「今」「未来」の連呼で不安感につけ込んだ「期待感」を醸成するといった選挙戦術が効を奏したと言えよう。「強いリーダーシップ」への期待という典型的なポピュリズム現象とも言える。「強いリーダーシップ」志向は、対外強硬姿勢支持とつながる。「不安感」が「日本が強くならなくてはならない」という高市のメッセージに反応したとも言われている。高市は「台湾有事＝存立危機事態」発言を撤回せず、「悪いのは中国」という印象を与えてきた。今後も、日中の緊張状態の常態化＝“日中新冷戦”下での「総力戦体制」構築に邁進するだろう。そのナショナリズムは、反米には向かわない。アクションのメンバーが昨年のある学習会の際、現代のナショナリズムを“「大リーグで称賛される大谷翔平」型ナショナリズム”と言ったが、“「トランプに賞賛される高市早苗」型ナショナリズム”とでも言おうか。まぁ米英と協調して対アジアの尖兵の役割を果たすというのは、明治国家以来の主流のナショナリズムなのだが・・・。

■高市政権の正体を暴こう！ 増税大軍拡と訪米・トランプとの首脳会談に反対しよう！

結局のところ、高市政権の正体は、社会保障を削減する“小さな政府”で、軍拡を優先する“強い国家”、即ちお定まりの新自由主義と新保守主義でしかない。多少の修正はある。国営工廠設立もあり得るといった議論を見ると、新自由主義とは異なるようにも見える。だが、中ロに典型的に見られる現代の国家資本主義は、市場経済を否定しない。国営企業であっても、その運営を民間に委ねるといったことが当たり前だ。国家は器や市場原理を働かせるルールを作る。そのルールは強い国家が順守させる。では、市場競争の犠牲者に対してはと言えば、薬漬け、「敗者復活戦」への期待感を持たせる「キャリアチェンジ支援」、そして“共助”の名での福祉の玉石混交のNPOへの丸投げ・・・といったところだろう。

再開される通常国会では、まず増税大軍拡2026年度予算案の審議が行われる。いくら超多数議席を占めようとも、その過程は、我々が高市政権の正体を暴露するチャンスである。それを活かしていこう。

高市は、予算成立の目途をつけて訪米する。3月19日にトランプとの首脳会談をすると報じられている。トランプの防衛費 GDP５％化要求を受け入れ、それを反映した安保三文書改定への動きを本格化させるだろう。並行して、通常国会後半ではではインテリジェンス・スパイ防止法の制定を進める腹だ。今こそ、高市にNO!の声を！

【活動日誌】

1月４日　米軍ベネズエラ攻撃抗議アメリカ大使館行動　呼びかけ：戦争・治安・改憲NO!総行動＋α

1月10日　降下訓練始め抗議津田沼情宣（呼びかけ：共同テーブルちば）　連帯アピール

1月12日

・ヘイトスピーチ許さない！練馬　「成人式」アピール

・戦争に協力しない！させない！練馬アクション学習会

　2026年　私たちの課題　米国家安全保障戦略と自民・維新合意文書を踏まえて

1月17日　大軍拡と基地強化にNO!アクション2025　増税軍拡予算に今こそNO!を　2026年度防衛予算分析会

1月20日　大軍拡と基地強化にNO!アクション2025防衛省申し入れ

＜資料1＞　2026年度防衛関連当初予算案の白紙撤回を求める要請

内閣総理大臣　高市早苗殿

防衛大臣　小泉進次郎殿

外務大臣　茂木敏充殿

文科大臣　松本 洋平殿

海上保安庁長官　瀬口良夫殿

　政府・防衛省は2026年度当初予算案として9兆353億円を閣議決定した。例年繰り返されている「過去最大」を更新した金額である。しかしここにはいくつもの欺瞞が含まれている。

　まず第一に、2022年末に改訂された「安保三文書」において、2023年度より5年間で「43兆円」とされた防衛予算を、高市政権は二年前倒しの2025年度内に実現すると明言し、そのための方策として私たちが繰り返し批判している「補正予算」の悪用を行ったことである。2025年度防衛補正予算額は「関連費」も含め実に1兆1000億を超える。この「関連費」なる用語はこの補正予算案が成立する直前から国会での答弁で繰り返されており、明らかに数字合わせのための伏線が張られていたのである。

　ではこの異常な前倒しの軍事予算は何に費やされたのか。昨年12月ストックホルム国際平和研究所（SIPRI）は世界の軍需産業の販売実績に関する報告書を公表したが、その中で世界全体の軍需関連の販売額が前年比5.9%増の過去最大を記録した中で、日本の主要軍需産業5社の販売額は前年比40%増となっている事が示された。貴重な税金が軍需産業の利益のために空費されたことを、私たち納税者は断じて認容できない。

　さらに、すでに5年分の43兆円を使い切ったはずであるにもかかわらず、予算案には相変わらず「43兆円」という数字が明示されていることの問題である。高市政権は「安保三文書」の次年度改定を公言している。当然必要とされる装備の導入金額を表す「防衛力整備計画」も上限修正され、さらなる軍拡路線が提示されるはずであり、2027年度からの「軍拡増税」も閣議決定されている。とするならば、無駄に膨張させられる軍事予算の確保のために、2025年度補正予算の悪用が今後も踏襲される可能性が高い。

　そして、その歳出内容としては、「スタンド・オフ防衛能力」の向上を最大の重点とし、従来からの「統合防空ミサイル防衛能力」に加えて、「無人アセット防衛能力」「SHIELD」構築が新規に加わった。次年度当初予算案では1,001億円ではあるが、将来構想を鑑みるならば膨大な支出が不可欠である。

　私たち「大軍拡と基地強化にNO!アクション」は基地現地に暮らす市民として、真の意味での安心と安全、そして世界の平和を求めて活動を続けてきた。自民党と維新との連立政権成立による、平和を破壊し、日本国憲法の根幹を公然と破壊しようとする動きに憤りを禁じ得ない。また「積極的財政」「強い経済」を表に出しながら、市民生活の困難に対する具体的で抜本的な対策は一向に示されていない中での、軍事予算の例外的優遇も許すことが出来ない。

　折しも解散・総選挙となることがはっきりした現在、2026年度防衛予算の白紙撤回・抜本的見直しをここに強く求めるものである。

大軍拡と基地強化にNO! アクション2025

「増税大軍拡 2026年度予算を許すな！」1･20防衛省申入行動　参加者一同

１月23日　大義なき解散許すな！戦争する国反対！国会情報局・スパイ防止法反対！国会開会日行動
共催：「秘密保護法」廃止へ！実行委員会、共謀罪No!実行委員会
１月26日　沖縄・西日本連絡会　防衛省交渉
１月28日　「ヘイトスピーチ許さない・練馬」新年の集い
練馬区のヘイトスピーチ対応や多文化共生政策等について考える区議会議員との懇談会
１月29日
・開くな！憲法審査会　明文改憲も実質改憲も許すな！国会行動　主催：戦争・治安・改憲NO!総行動＋α
・学習会　今なぜ「スパイ防止法」？　主催：憲法を生かす練馬の会　講師：池田五律
２月４日　国民保護訓練＠葛飾＆江戸川監視行動

＜報告＞

■水元総合センター　　**報告者:渡辺つむぎ**

葛飾の水元総合スポーツセンターへは、私と、尾澤さんが来てくれて二人で監視を行いました。

9：45くらいから現場に居ましたが、普通にスポーツセンター利用者がいっぱい、プールもジムも、体育館には水元小学校の一学年80名くらいがゾロゾロ入ってきたので、小学生動員かと思いきや「訓練」とは全く無関係に体育してました。

10：50くらいに奥の武道場から30名くらいの「避難者役」（どこかの団地自治会の動員らしく、大半が高齢男性）がゼッケンを着けてゾロゾロ～と外に出てきたとおもったら、「ふぁ～～～ん」と実に気の抜けたＪアラートが鳴って、またゾロゾロ～と中に入って行って終わりです。そのあと、武道場で映像を観ながら講習を受けていたようでしたが、11：30になんとなく終わった態で出て来たので引き上げました。緊張感ゼロ（笑）Ｊアラートの音量も拍子抜けでした。

避難者役約30・東京都職員約30・ガードマン約30・スポーツセンター職員数名・公安？2名ほど　でした。

参加者輸送の大型バス２台と、警察車両が２台ほどでした。

■タワーホール船橋　　**報告者:ふじた五郎**

駅のそばのタワーホール船堀で都の職員、警備員が５０人くらい。警察は制服が３人か、公安らしきは見当たらず（選挙警備に集中か)。1階のホールで（仕切られているが、スライドも見える)、説明とスライド上映。

10時45分くらいに、ゼッケンを着けて約50人が外に出て来る（男女とも60～70代が大半)。そのまま階段を降りて地下2階へ（その現場は行けなかったので。しゃがんだかどうかは不明)。また昇ってきて、ホールで若干の説明をして解散。アラートは鳴ったが、街も駅もタワーホール（上の階は住居もあり、横のエレベーターで出入りしている)。もまるで緊張感なし。ただ話を聞いて、階段の上り下りをしただけ。

通行人が2人、それぞれ「何をしているんですか？」と警備員に聞くと、「防災訓練です」と断言！周りの都職員の誰も修正せず（もしかしたら動員された職員も、防災訓練だと本気で思っているのかも知れない)。消防車両も警察車両もなくて、そこで一体何をやってるのかも分からない。「もっと真面目に訓練やれ！」なんてコールをしたくなってしまった。

２月５日　ロシアのウクライナ侵攻2022年２月から４年　続く戦争の中で・・・ロシアは今どうなっているのか―経済を中心に―　講師：日臺健雄さん（和光大学経済経営学部教授）　主催：練馬アクション

＜発言要旨＞　　**文責:池田**

ウクライナ侵攻後、ロシアは主に国民福祉基金の取り崩しで財政赤字を補填してきた。ただし、ウラル原油価格１バレル＝40 ドルの基準価格を上回る場合に積み立てるというルールは戦費支出増加で停止。それに代えた年間８兆ルーブルという基準もルーブル安を招いて、現在は元のルールに戻している。日本と比べ財政状況はよいが、軍事支出、準軍事組織や治安も含む国家安全保障への支出、契約兵獲得にかかる費用が財政、殊に地方財政を圧迫している。ルーブル建て国債、増税で賄おうとしているが、景気後退、国民福祉基金の流動性資産の枯渇のおそれ、格差の拡大といった問題も抱えている。しかも、世論調査で防衛費を主要紙支出にすべきとする回答者の割合は減っている。だが、「特別軍事作戦」という形態の戦争を後一年半は継続できる経済力・財政力を有している。国有化により、国家資本主義化も進んでいる。本格的な戦時総動員体制にモードチェンジすれば、それ以上に戦争を継続できるかもしれない。

２月９日　練馬アクション月一第二月曜日学習会　検証！総選挙―どうなる2026年度予算とその後

【呼びかけ＆集会案内】

警戒しましょう！自衛隊による徒歩行進訓練

繰り返されています！　練馬駐屯地からの部隊進出！

昨年も3月11日「防災」を名目に　戦闘服で市街地を徘徊！

呼びかけ:戦争に協力しない！させない！練馬アクション　090−5208−5803(池田)



練馬春日町交差点近くを行軍する自衛隊(2025年3月11日)

■集まれ！アメリカ大使館抗議行動

米軍がベネズエラ、イランその他を攻撃したら・・・

攻撃が午前の場合:当日18:30　攻撃が午後の場合:翌日18:30
住友不動産虎ノ門タワー(旧JTビル)前集合

■武力に物を言わせるトランプ米大統領と会談するな！

高市訪米に抗議する首相官邸前行動　訪米前日18:30集合

■高市訪米・トランプ会談に反対する3・14集会　お話　太田昌国さん

日時　3月14日(土)13:15開場　13:30開始(予定)　会場:文京区民センター・2A
呼びかけ　戦争・治安・改憲NO！総行動実行委員会＋α

■止めよう！富士・百里・横須賀への長射程ミサイル配備 2・17院内集会&政府交渉

呼びかけ:STOP大軍拡アクション／大軍拡と基地強化にNO!アクション2025／非核市民宣言ヨコスカ／ヨコスカ平和船団
2月17日(火)13:30～16:45　参議院議員会館101会議室

■撤去から2年　群馬の森・朝鮮人追悼碑問題から学ぶ

―強制連行の歴史を抹殺する今を問うー2・20練馬の集い

開場18:50(開場)　19:00開始　20:30終了予定　会場　ココネリ3階・研修室1西側
問題提起　高橋夏未さん(一橋大学大学院生)　主催:ヘイトスピーチ許さない・練馬

■「日の丸・君が代」の強制に反対する練馬の集会2026　教育勅語の「活用」にNOを！

北村小夜さんが話す！　教育勅語のここが問題だー

日時:2026年3月7日(土)　13時30分開場　13時45分開始　資料代:500円
会場:サンライフ練馬会議室1・2（西武池袋線「中村橋駅」徒歩5分）

■地震の国に原発いらない　練馬でもデモ2026　10:40つつじ公園酒豪　11:00デモ出発

■大軍拡と基地強化にNO!アクション2025　許すな！増税大軍拡予算

長射程ミサイル配備を止めろ！3・8集会&3・9防衛省申し入れ

○集会　日時:3月8日(日)　13:30開場　14:00開始　会場:文京区民センター・2A　※資料代:500円
お話:竹内康人さん　長射程ミサイルの富士配備反対の動き
○申し入れ行動　日時　3月9日(月)12:00防衛省前集合(予定)

【自衛隊・防衛省動向(2025年12月20日～2026年1月30日)】

2025年

12月21日　小泉防相、陸上自衛隊「水陸機動団」が配備されている相浦駐屯地を訪れ、オスプレイを使った訓練などを視察。視察後、今年8月に日米間で合意された佐世保市の前畑弾薬庫の移設・返還について「今後できる限り早期に実現するよう精力的に進める」と述べた

12月22日　第6回自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議。高市首相、自衛官の給与の基準となる「俸給表」の改定について、1年前倒しして2027年度に実施する方針を示す

・兼松が自衛隊にVR訓練器材納入、練習機とセット　デジタルへ企業提案裾野拡大

・もがみ型護衛艦FFM-12、三菱重工 長崎造船所で命名・進水式　小泉防相参加

・日インドネシア防衛相テレビ会談

12月23日　新たな「サイバーセキュリティー戦略」、閣議決定　急速に発達する人工知能（ＡＩ）を利用した攻撃が新たなリスクとして深刻さを増すと危機感を示し、警察と防衛省・自衛隊が共同で攻撃の無害化措置を実施する体制を構築する」と明記

12月24日　衛星コンステレーションの整備・運営等事業について、落札者決定　落札者：三菱電機株式会社を代表企業とするグループ　代表企業：三菱電機株式会社　構成員：スカパーJSAT株式会社、三井物産株式会社　協力企業：株式会社Synspective、株式会社QPS研究所、株式会社アクセルスペース、三井物産エアロスペース株式会社

12月26日　防衛省、2027年度に航空自衛隊奄美大島分屯基地（鹿児島県奄美市笠利）に「第５７警戒隊（仮称）」を新設することを明らかに　陸自奄美駐屯地（奄美市名瀬）の電子戦部隊についても増強を計画

12月28日　防衛省、2026年度防衛費公表　初の9兆円台

2026年

1月7日　馬毛島基地整備、防衛省が全工事中止―作業員の負傷事故相次ぐ、安全策を総点検。翌日工事再開。

1月8日　山梨県の上野原市と大月市にまたがる「扇山」の山林火災で、県や自衛隊などのヘリコプター6機が上空から放水。※各地の山林あるいは原野火災やクマ対策など、自治体の要請に基づく「民生派遣」が目につく。「民生派遣」の実態調査が必要！　秦野、藤枝の森林火災にも派遣。

1月11日　習志野降下訓練始め。15ヶ国多国間演習。空挺作戦で領土を防衛する地上訓練（一般公開）に４足歩行型の“ロボット犬”も訓練に初参加。

1月13日

・シーガーディアン無人機と関連器材の修理・補給・整備などについて情報提供を募集。

・陸上自衛隊霧島演習場で都城駐屯地のドローン１機が行方不明に。17日に演習場外で発見。

1月14日　日本政府によるウクライナ向けの中古自動車の提供。全数の引き渡し完了。

1月15日　物品役務相互提供協定（ACSA）署名。海軍用に複合艇の格納庫建設支援決定。

1月16日

・日米防相会談。中国を念頭に侵略抑止に向け日米同盟の役割を確認し、より実践的な訓練の実施や防衛産業基盤の緊密協力などで一致。沖縄など南西諸島を日米同盟の抑止力強化の最優先事項と位置付けた。

・日伊首脳会談。両国関係を「特別な戦略的パートナーシップ」へ格上げ。日伊英間の次期戦闘機の共同開発を含む安全保障・防衛面での協力の更なる強化を確認。重要鉱物のサプライチェーン（供給網）強化を含む経済安保での連携も確認。今年、伊海軍艦艇の日本寄港。

1月17日　カンボジア軍が国連ＰＫＯに工兵部隊を継続的に派遣するために必要な専門家チーム（測量技術者、重機操作要員及び工事管理者で構成）を創設するため、教官を含む必要な人材を育成する能力構築支援事業（1月18日～３月１日）に17名（陸自第４施設団14名、防衛政策局インド太平洋地域参事官付２名、陸上幕僚監部防衛協力センター１名）を派遣。

1月19日

・2025年度方面隊災害対処訓練（「07南海レスキュー」）始まる。１月25日まで。

・護衛艦てるづき、ミサイル射撃訓練（米国派遣訓練(護衛艦)）のため、ハワイ諸島周辺へ。３月２日まで。

1月18日　防衛省、奄美大島・瀬戸内町で、古仁屋港（須手地区）に計画している港湾施設に関する住民説明会を開催。2026年度に取得予定である新型輸送艇（自衛隊海上輸送群に配備予定）の詳細を明らかにした。2026

年度末までに海上輸送隊（約 20 名、輸送艇１隻）を海自奄美基地分遣隊に新編。2027 年度には３隻を追加し、計４隻の輸送艇が奄美を拠点とする計画です。の装備で、これまで「機動舟艇」と呼ばれてきたものです。防衛省・自衛隊は、最終的に同型艇を４隻取得する計画。

１月 20 日　日米合同委員会。

・陸上自衛隊、米海兵隊との日米共同訓練「アイアン・フィスト（ＩＦ）」を、２月 11 日～３月９日に鹿児島を含む九州・沖縄などで実施すると発表。

１月 22 日　日米寒地演習始まる。

１月 23 日　防衛省、2026 年度の沖縄県道 104 号線越え実弾射撃訓練の分散・実施について発表。第１回 北富士演習場：1/四半期（4 月～6 月）、第２回 東富士演習場：2/四半期（7 月～9 月）第３回 矢臼別演習場：3/四半期（10 月～12 月）、第４回 日出生台演習場：4/四半期（翌年１月～3 月）。

１月 28 日

・韓国空軍の曲技飛行隊を航空自衛隊那覇基地（那覇市）に受け入れ、給油支援。30 日には日韓防相会談。

・日加防衛装備品・技術移転協定署名

・コルビー米国防次官、26 日に訪韓の後、来日。「通常兵器に関連した朝鮮半島防衛の韓国主導」原則に共感したことで、戦作権移管が加速化するものとみられる。米 23 日（現地時間）、「2026 年国家防衛戦略（NDS）」（23 日公開）が示した「韓国が北朝鮮抑止の主導的責任を担い、米国は決定的だが限定的な支援を提供する方針」に基づくものと思われる。また、「韓国の原潜建造をめぐる協力が、朝鮮半島の防衛を韓国軍が主導できる防衛能力を強化し、韓米軍事同盟を一層格上げする重要な道しるべになるという点で一致し、緊密に協力していく」ことになった。一方、「在韓米軍の主な任務」は、北朝鮮の抑止から中国けん制に変える（「戦略的柔軟性」の具体化）。韓国を「模範的な同盟国」と呼び、国内総生産（ＧＤＰ）の 3.5％を防衛関連支出に充てるという李在明（イ・ジェミョン）大統領の公約を称賛した。日本とは第一列島線の抑止力強化について議論。

1月 29 日～2月 5 日

・日米共同の指揮所演習「キーン・エッジ 26」。健軍、北熊本、そして朝霞駐屯地でも。

・２月 11 日から３月９日まで行われる陸自・米海兵隊共同演習「アイアン・フィスト 26」に陸自オスプレイが佐賀空港配備後、初参加することが明らかに。

１月 30 日　日韓防衛相会談（海自横須賀地方総監部にて）。

１月 31 日　日英首脳会談。日英とイタリアの３か国による次期戦闘機の共同開発の推進や、重要鉱物のサプライチェーン（供給網）の強靭化など、経済安全保障を含む安保分野での協力強化で一致。サイバー分野での包括的な協力枠組みとなる「戦略的サイバー・パートナーシップ」の創設でも合意。

〔特集：高市もトランプも去れ！〕【チェックポイント】トランプを侮ってはいけない　文責：池田五律

トランプは国際秩序を破壊し、ロシア寄りのウクライナ和平案などで西欧諸国との関係も悪化させ、中国にも妥協せざるを得なくなり、米自体の国際的影響力を弱めている…と言われる。米中Ｇ２体制にさせないために、ミドル・パワーの連携、グローバル・サウスとの関係強化でトランプの暴走を制御すべきだ…と語る者も多い。

だが、トランプのグリーンランド領有圧力に反発したＥＵがメルスコルスと締結した自由貿易協定は、欧州議会の反発で発効できなかった。ミドル・パワーとグローバル・サウスの連携の試みが頓挫した事例とも言える。その一方、グリーンランド問題を巡る米欧交渉の現状は、西欧諸国がウクライナ方面のみならず、北極方面でも対ロ最前線を担う負担を増大させることで落ち着いた。トランプは、インドとも妥協的な貿易協定を結んだと言われる。だが、インドはロシア産石油輸入停止を受け入れた。トランプは一概に親露的とは言えない。ベネズエラを出入りするロシア船籍の石油タンカーを米軍が拿捕してもいる。Ｇ７の中国詣では、トランプへの反発とは言い難い。トランプ自身が４月に訪中する。といっても米中デタントに向かっているわけではない。「現在の米中関係は、水面上では首脳会談を通じて経済的ディールが行われ、安定しているように見えるかもしれない。しかし、その水面下では資源争奪、勢力圏の定義、そして軍事的優位性を巡る激突が絶え間なく続いている」のだ（佐橋亮「超大国が並び立つ「G2」時代 不安定な「力による均衡」へ」『エコノミスト』2026・2・10）。西欧諸国の中国詣でも、こうした米中関係を踏まえてのものだ。機微技術分野に関するサプライチェーンからの中国排除―重要資源の対中依存脱却の方向は変わるまい。日本との多国間安保強化も変更するまい。インドとの合意には、クワッドによる対中抑止役割増の思惑も秘められている。中東でイスラエルを尖兵に対イラン圧力を本格化させ、西欧諸国に対ロ最前線を担わせたように、東では対中最前線に日豪印を立たせる。高市政権は、それを買って出ている。トランプを侮らず、総選挙後の高市政権の動きを注視しよう。

〔特集:今こそ高市にもトランプにもNO!を〕【オピニオン】

再び頭をもたげる教育勅語～学校教育を蝕む元凶を断ち切れ！

中川信明(練馬教育問題交流会)

またぞろ、教育勅語が頭をもたげている。教育勅語は、1890年に発布された明治天皇による「教育に関する勅語」であるが、戦前・戦中の皇民化教育・軍国主義教育の根幹をなし、それゆえに、戦後GHQの指導の下、1948年に国会で失効決議がなされた。

しかしながら、ほとぼりが冷めると、教育勅語の「復活」が画策され、叩かれるとひっこめる、しばらくすると、また姿を現すといった「モグラ叩き」のような状態が、戦後続いてきた。そして、文部省（文科省）は、表向きは教育勅語の復活を否定しながら、水面下では、道徳教育の復活（1958年)、「こころのノート」の導入（2001年)、道徳の教科化（2018年）と、「教育勅語の実質化」を進めてきたのである。

一方で、ここ数年、教育勅語そのものを復活・活用しようとする動きがある。第一は、レイシスト政党として跋扈している参政党が、その「新日本国憲法（構想案)」で、「教育勅語など歴代の詔勅（中略）は、教育において尊重しなければならない」と明記したことだ（今回の選挙においては、その点を打ち出すのか、隠すのか)。第二は、松井一実広島市長が、毎年の職員研修会で、教育勅語を「先輩の作り上げた良いもの」として引用しつづけていることである。第三は、過去に、教育勅語を礼賛してきた高市首相や木原官房長官等で構成される高市政権の発足である。高市首相は、2012年に自身のHPに「(教育勅語の徳目は）現代においても尊重するべき正しい価値観」とし、「この見事な教育勅語は、敗戦後の GHQ（連合国軍総司令部）占領下で廃止されてしまいました。日本が独立統治権を失っている間に壊されていったものは余りにも大きく、政治体制、教育政策、精神文化など多岐に渡って、その影響は現在にも及び続けています。」と明記している。また、木原官房長官も、やはり2012年に自身のHPに「教育勅語の廃止で道義大国日本の根幹を失ってしまいました。」と記載している。今のところ、高市首相は、「教育勅語を復活させることはない」と言っているが、上記のHPの記載についていまだ消していないようであり、たとえば、今回、選挙で勝ってしまったら、憲法改正とともに、教育勅語の活用も言いだしかねない。

ここで、教育勅語全文を掲載する。

> 「朕惟フニ、我カ皇祖皇宗、國ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ臣民、克ク忠ニ克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ、世々厥ノ美ヲ済セルハ、此レ我カ國体ノ精華ニシテ、教育ノ淵源、亦実ニ此ニ存ス。 爾臣民、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相信シ、恭倹己レヲ持シ、博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ、業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓発シ、徳器ヲ成就シ、進ンデ公益ヲ広メ、世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重シ、國法ニ遵ヒ、一旦緩急アレハ、義勇公ニ奉シ、以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。 是ノ如キハ、独リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。 斯ノ道ハ、実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス。 朕、爾臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。 明治二十三年十月三十日 御名御璽」

教育勅語を評価・活用する人たちは、下線の12の徳目を評価する。そして、教科道徳では、これらの項目を引き継ぎ、22に拡大している。しかしながら、12の徳目は、最終的には「一旦、緩急アレハ、義勇公ニ奉シ、以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」に集約する。つまり、「天皇のため、国家のために命を捨てる」ことを求めているのだ。教科道徳では、その点はあいまいにしてきたが、改めて教育勅語自体を復活させようとしている高市首相や参政党の狙いは、そこにあるのではないか。また、私たちが忘れてはならないのが、これは天皇の勅語であるという点である。今、教育勅語を断ち切ることが、天皇制との決別の一歩であり、そこから真の民主的な教育の可能性が見えてくるのである。

さて、私たち教育問題交流会は、今年3月の集会で、教育勅語の問題を取り上げる。講師は、教育勅語批判のスペシャリスト、北村小夜さん。100歳になられた北村さんは、戦前、「軍国少女」として教育勅語によって調教された苦い体験から、戦後は教師として、反戦平和や反天皇制、人権を基軸に教育実践をされてきた。これまで、私たちの集会にも二度来ていただき、お話いただいたが、今回は、北村さんにとっても、原点である教育勅語批判を真っ向からしていただきたいと考えている。

集会の日時は3月7日（土）13時45分～。場所は、サンライフ練馬会議室１・２（西武池袋線中村橋下車)。集会タイトルは、〝「日の丸・君が代」の強制に反対する練馬の集会：教育勅語の「活用」にNOを！―北村小夜さんが話す！教育勅語のここが問題だ―〟是非、多くの皆さんのご参加を！

【読書案内】 鶴見太郎『シオニズムーイスラエルと現代世界』（岩波新書、2025年11月20日）

『シオニズムーイスラエルと現代世界』目次

■**アメリカはどうしてイスラエルを野放しにし続けるのか**といった話をしていた際に、中川信明さんから**大宮有博著『キリスト教シオニズムとは何か』(日本キリスト教団出版局、2025年12月16日)**を紹介していただいた。でも、そもそも「シオニズム」って何？ で、本書の紹介を思いついた。

■第７章には、1996年にネタニアフが首相になって以降のイスラエルの右傾化、９・11以降の「対テロ戦争」との共振関係（イスラエルの軍需・セキュリティ産業の国際市場進出を含む）、分離壁建設（治安を高めることをねらい周囲を塀で囲ったゲーテッド・コミュニティの国家規模化＝ゲーティド・ネーション）の影響、10・７以降・・・の流れが簡潔に記述されている。この第７章だけを読んでも、十分に読み応えがある。

■だが本書の特色の第一は、シオニズムの展開を**「東欧史からの展開」**を軸に抉り出した点である。まず「まえがき」に付されている表**「歴代イスラエル首相の出身地」、「シオニスト指導者の出生地」に驚かされる。ウクライナ、ベラルーシ、ポーランドなどが並ぶ**。後者のなんと76%がロシア東欧で、ロシア帝国のみで66%！ それらの地域では、強制移住・住民交換が繰り返されてきた。**ホロコーストの「主戦場」も東欧**だった。プロレタリア化―ロシア人との競合―**ポグロムの猖獗の中、シオニズム自体、ロシア帝国で生まれた**。それは、パレスチナへの入植＝棄民と帝国内でのロシア人等他民族との対等化を両輪にするものだった。そして**帝国崩壊過程で、ユダヤ人国家設置と軍事化を志向するネタニアフにつながる「修正主義シオニズム」が生まれる**。西欧シオニズムは、東欧ユダヤ人の流入が反ユダヤ主義を刺激することへの恐れを背景に生まれた。かくて、**シオニズムは、ユダヤ人問題の「厄介払い」と一体の「ネーションに基づく秩序を国際社会ぐるみでパレスチナに押しつけるうねり」の中核に位置する**ことになり、**「入植者植民地主義」**の矛先をパレスチナ住民に向けていく。こうした歴史を踏まえて筆者は、**「国際社会は正義を求め、イスラエルは暴走しているという構図で理解してしまうと、本質を見失う」**とし、**「「国際社会」としての立場も、所詮はユダヤ人の棄民政策の延長線上のものであって、パレスチナ人の犠牲は初めから過小評価されていた」**と言う。

■本書は**アメリカのシオニズム**についても言及している。それは「アメリカに止まることを前提にしていた」と言う。「ユダヤ系アメリカ人」としてアメリカに貢献すれば、「十全なアメリカ人であることができる」からだ。彼らにとって**「ユダヤ・アイデンティティを実感する」ツールとしてイスラエル支援**が専らシオニズムとなった（第５章)。また、「ユダヤ人がパレスチナに集結し、そこでキリスト教に集団改宗することでキリストが再臨し、千年王国が生まれるという信仰」＝千年王国論が北米に渡ったピューリタンに受け継がれたことなどにも触れられている。**「今日キリスト教シオニズムの傾向が強いプロテスタントの宗派は福音派」**だそうだ。レーガン、ブッシュ父政権は福音派に近く、ブッシュ息子は熱心な福音派。トランプは、「自らは福音派ではないが、支持者意識してか、歴代大統領のなかでも最もイスラエル寄り、しかもネタニアフ寄り」（第６章）だと言う。

■西独の「加害者意識ナショナリズム」の再構築とも絡みつつ、修正主義シオニズムからすれば「被害は自業自得」とされていた**ホロコーストの記憶が「被害者意識ナショナリズム」形成のテコに**されていったこと（第５章)や、**宗教的シオニズムの過激化**（第６章）など、第７章を理解する上で読み落とせない記述も多い。**動物の権利を主張するヴィーガニズムとシオニズムが結合**して、「無垢な動物を保護する倫理性を備える人間によって・・・構成される」「イスラエル社会・・・に攻撃を加えるパレスチナ人は野蛮な動物であるという構図が強調される」といった指摘なども、読み落とせない。**唯一の女性首相となるメイル**をベングリオンが内閣の中の「唯一の男」と評した話も出てくる。メイルは**シオニズムが結びつける力強さと男性性を備えていた**から首相になれた。力強さをアピールする**高市首相は日本版メイル**なのかもしれない。他にも、「被害者意識ナショナリズム」という観点など、現代日本について考える上でも示唆に富む。

（文責:池田）

〔特集:今こそ高市にもトランプにもNO！を〕【雑誌漁り読み】『サンデー毎日』2026.2.1号

高市解散が大乱を呼ぶ＆トランプの暴挙が世界秩序を破壊する

雑誌は月刊誌に限らない。週刊誌も雑誌だ。で、今回は『サンデー毎日』2026．２．１号を紹介する。

■高市解散が大乱を呼ぶ

「高市解散が大乱を呼ぶ」は４本の記事から構成されている。

一本目は、「「奇襲」総選挙 VS「即席」新党」。リード文に注目すべき記述がある。それは、**中道改革連合の政策軸は、寺島実郎が提唱する①日米同盟の再設計と柔軟な多次元外交の創造、②アベノミクスとの決別とレジリエンス（「反発力」「復元力」「弾力性」「回復力。「国家レジリエンス」＝「防災・減災」。寺島は「回復・耐久力」との意味で用いている）強化の産業創造、③戦後民主主義の錬磨（寺島は「新しい公共」を社会に実装すべきだと主張している）だとしている。①は多国間安保、②は国土強靭化、③は公助削減・共助への負担押しつけになりかねない。**次いで、山崎拓、久米晃、山添拓へのインテビュー。山添が、外交安保が争点と語っている。

外交安保が争点にならない背景には中道改革連合結成がある。鈴木哲夫「立憲＋公明「中道新党の衝撃　高市首相の「自己都合」解散」は、立憲で立公合流に水面下で動いたのは、安住幹事長と馬淵代表代行だと指摘している。鈴木は、安住は勝つためには何でもあり、馬淵は**右寄りの保守と中道保守への政界再編**を主張してきたと言う。そんな両人の仕掛けの新党だということを確認しておこう。鈴木は、荻原博子と、「私たちの暮らしと政治はどう動く」という対談もやっている。鈴木哲夫が結構反戦的な言辞を発していて少しビックリ。

最も読んで欲しいのは**青木理「「TM 報告」（統一協会の内部文書）が浮き彫りにする自民党と統一協会の恐るべき蜜月」**。安倍、萩生田、牧島などと統一教会との関係の深さが改めてよく分かる。長島昭久（民主党→民進党→無所属→希望の党→無所属・未来日本→現自民党）が合同結婚式に参加した元信者であることも再確認されている。**野田政権で防衛副大臣、石破政権で安全保障担当首相補佐官など安全保障畑の重職についてきた民主党政権―自公政権の安全保障政策の連続性を象徴する存在である長島昭久は、統一協会元信者**なのだ。

■トランプの暴挙が世界秩序を破壊する



トランプの暴挙が世界秩序を破壊するでは、田中均と太田昌国さんが緊急発言。**田中均曰く。「高市氏が（「台湾有事＝存立危機事態」発言を）撤回しない限り日中修復はない」。**

必読は太田昌国さんへのインタビュー「侵略する冷酷　アメリカ 200 年の宿痾」。

ナポレオン戦争―スペイン弱体化―ラテンアメリカ諸国の独立といった状況を**「ライバルの欧州列強を米大陸から締め出し、米国が独占する好機」としたのがモンロードクトリンの基本**だと指摘する。そして、モンロー宣言後、スペインから独りしたメキシコからテキサスを奪い、さらに米墨戦争でアリゾナ、ユタ、カルフォルニアをも奪い、その五年後にペリーが日本に来航したと語る。その歴史に鑑み、**「ドモンロードクトリン」は、中ロなど他国が西半球に手を出させない意思表示**と受け止めるべきだと言う。

そして太田さんは、マドゥーロ大統領夫妻拉致し、米国に連行して刑事裁判にかけた**ベネズエラ攻撃は「軍事的深入りは避けつつ・・・国家主権の尊重、人権保護という近代的価値を踏み外した暴挙だ」**と語る。太田さんによれば、今回の作戦の**キーパーソンはルビオ国務長官**。トランプは、「第２次政権ではルビオを含めて何人かフロリダ州出身を要職」につけている。だが、第２次政権でベネズエラ攻撃が急浮上したわけではない。太田さんは、**第1次トランプ政権でもマドゥーロ排除計画**はあったことを指摘し、すでに「『西半球』という言葉もその頃から使っていたことにも注目したい」と言う。

だが、太田さんは、マドゥーロ政権を「独裁的な権威主義的な体制だとして、批判的に見てきた」と言う。そして、**「チャベス時代の大衆運動の成果もさまざまな社会的プログラムも打ち捨てられ、民衆抑圧が前面に出てきては、まっとうな社会革命は成し遂げられない」ことが「マドゥーロ政権の弱点」**だと語る。

また、10 月 28 日の日米首脳会談とその後の横須賀米軍基地へ同行した際の**高市首相について、「カリブ海で米軍の軍事行動が報道されて3週間後の日本国首相の振る舞いとしてはひどすぎる**と思う」と語る。

【呼びかけ】に掲載した**3・14 集会で、生太田昌国さんの話を聞こう！**

【マイファミリー戦争・戦後ヒストリー②】　　嘉藤広子（戦争に協力しない！させない！練馬アクション）

■沖縄・小禄の父と奄美出身の母



1947 年米軍撮影の大改修後の小禄基地跡。まだ旧海軍小禄航空基地旧滑走路跡などが判かる。

私が生まれたのは 1960 年 9 月、那覇市字小禄、小禄小学校の側の家で、父は小禄の末っ子長男、母は奄美の出身だった。母は、戦後、沖縄から旅芸人として奄美に興行にきていた一座を追っかけて沖縄に渡ったらしい。歌や踊りの好きだった母らしいエピソードだ。そんな母は、基地で働いていた時に父と出会ったのだという。母は、病気がちであったが、気分が良い時には、カセットテープで藤山一郎の「青い山脈」、春日八郎の「お富さん」、田端義雄の「19 の春」、そして、いたく気にいっていた吉田拓郎の「結婚しようよ」のレコードなどをかけていた。母の手拍子は独特で、手を叩いた後両手をすり合わせて調子を取る。カチャーシ（奄美のお祭りやお祝いの場の最後に踊る即興踊り、六調とよく似ている）は男踊りのようにリズムのある格好良い踊り方だ。それから母は、父と一緒に歩いた国際通りやコザの街、ハーリーの話をする。私は国際通りやコザの街の華やかさを想像しながら、母の笑う顔をみるのが好きだった。母は「タケ（父）は良い人だったよ。だけど、親戚縁者が沢山いてね。末っ子長男だったから、姉さん達の言う事に逆らえなかった。沖縄の家のしきたりやなんかには苦労した」。

■奄美にて

母は、奄美に帰る決心をする。その時、私は数えで２歳、２つ上の姉がいた。いよいよ船に乗る日、父の姉達が、「跡取りである私の姉」を連れ出し、匿ってしまう。母は必死になって探し回ったが、見つけることが出来ず、「必ず迎えにくる」と決心して、私とその時まだお腹の中にいた弟と一緒に奄美に帰ってきた。この時、沖縄はまだ米軍統治下だったから、私の１番幼い写真はパスポートだ。

私が小学２年生の頃だったか、親類から、「沖縄に旅行に行く」と聞いてきた母は、「姉」の様子を見てきて欲しいとその人に頼んだ。

父にはこどもの時から、親同士が決めた許嫁がいた（父の家は、そういう家だったらしい）。父は母と別れたすぐ後、「私の姉を養育してもらう為に」その人と再婚し、私の弟と同い年生まれの女の子がいた。奄美の子が男の子だったことを知った父方から頼まれて「向こうが弟を引き取りたいと言っている。弟にとっても、そのほうが何不自由なく幸せじゃないか」と母は説得されていた。その人が「姉」の写真を１枚、撮ってきていた。母は「利発な子だった」姉の、小学生になった写真を手にして「寂しそうな顔をしている」と、撫でながら、泣いていた。だからといって、父方から何かの援助があるわけでもなく、弱視で、結核を患い、精神的にも不安定だった母は、母子寮に入り、私と弟を育てあげた。

その後も、小学生のうちは、母に言われ、毎年、父宛に年賀状を書いていた。返事が来ることは一度もなかったけれど、本を読むのが好きだった私は、物語の主人公になって「今は事情があるのだ。きっと父が私達を助けにきてくれるのだ」という空想で遊んでいた。

高校生になった私は、理数コースにいた（英語、地理、歴史といった暗記もの系が致命的に弱かったのだ）。クラスメイトは、大半が大学や専門学校進学を目指していた。住み込みで働きながら夜間の専門学校を考えていた私に、母が「国際通りの姉さん（父の）が琉大に行くなら、生活費も、学費も全部面倒をみると言っている」と話しを持ってきた。心惹かれた。自分の世界が広がっていく気がした。でも「何を今更」の気持ちがまさった。以来、沖縄＝父を封印した。

■練馬で沖縄と出会う

38 歳で練馬区の保育園用務職員となったその年に、子宮がんを患った。自分のこれからを思った時、「沖縄の父と姉のいる家を一度みてみたい」そんな思いがわいてきた。そんな思いを子供がお世話になっていた練馬区児童劇団の先生に話したら、「今度読売旅行で沖縄に行く。旅費は出してあげるから一緒に行きましょう」と誘われた。思い切って、沖縄ツアーに参加して、何時間かの自由時間をもらい、父の住所の書かれた手帳を確認しながら、小禄小学校を頼りに、父と姉の住む家を探しあてた。その家からは、こどもの声も聞こえてきて、戸を叩くことが出来なかった。その旅行で訪れた沖縄県立博物館で、戦後の沖縄の街や暮らしを再現した展示があった。「母にも楽しい青春時代があったんだなあ。父も苦しい思いもしたのだろうなあ」と涙が出た。また、ひめゆりの塔や戦跡を回り、「学校の歴史で先の大戦のことは習ったはずなのに、沖縄の地上戦のことは、何も知らなかった」事を知ったのだった。この沖縄ツアーが転機になった。

しばらくして、私は、練馬区職労に入り、区職労枠で、それから個人で、沖縄に行きだした。辺野古、嘉手納、普天間、高江、チビチリガマ、シブクガマ、県民投票、選挙の時には、投票依頼の電話かけや街頭で手を振った。（沖縄の選挙は、何故かいつも雨が降る）。「金城実彫刻アトリエ」にもお邪魔させて頂いた。金城さんのアトリエには、部落解放同盟浅香支部寄贈の「人の世に熱あれ！人間に光あれ！全国水平社創立 90 周年（2012 年）」の大きな赤い旗が「瀕死の子を抱く女」と一緒に飾られていた。私達が「そろそろ帰ります」と言うと金城さんは、裸足で道路まで出てきて見送ってくれた。（金城さんはかなり酔っていたから覚えているだろうか）。

■辺野古

辺野古の座り込みにも何度か行った。ある時、テント村で休憩していると「マサさん、マサさん」と周りから呼ばれている人に声をかけられた。「何処から来たの？」「東京、出身は奄美大島」「奄美って事はここでは話さない方がいい」。奄美から職を求めて、辺野古に移住してきた人たちは、差別もあり、苦労したらしい。そして、今、辺野古移設に賛成しているのだという。辺野古の賛成派と反対派は政府からの補助金で分断があるのだと、話してくれた。

そのマサさんは「強盗目的の米兵に母を殴り殺された」と他の人から聞かされた。（米軍や日本政府からは謝罪の言葉も、事件の詳細も知らされなかった）。辺野古集落の朝は静かだ「民宿クッション」の道路に面した椅子に座り、朝の光を浴びる。それから散歩をする。今は営業していない店に、英文字の古い看板が掛かっている。軒先には、ブーゲンビリア、ディゴ、ハイビスカスの花が咲いている。朝からの強い日差しに赤い色が良く合う。


号外
沖縄タイムス
OKINAWA TIMES
2018年（平成30年）
8月11日 土曜日

翁長知事の遺志継ぐ

土砂投入許さぬ 県民大会

プラカードを手に辺野古新基地建設反対の意思を示す参加者＝11日午前、那覇市・奥武山陸上競技場

名護市辺野古の新基地建設に反対する「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は11日午前11時から、「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」を那覇市の奥武山陸上競技場で開いた。3万人以上の参加を目指した大会には、辺野古の海の色「辺野古ブルー」に合わせた青色の帽子、タオルなどのほか、8日に膵臓がんで亡くなった翁長雄志知事への追悼の意を込め、喪章や黒リボンを身に着けた多くの人が参加した。

壇上には翁長知事の席が前列中央に用意され、いすの上に知事が大会で着用予定だった帽子が置かれた。開会後、参加者全員で翁長知事の冥福を祈り、黙とうした。

翁長知事の次男で、那覇市議の雄治さんが、生前に知事が語っていた言葉を紹介。高良鉄美共同代表は圧倒的な力の差がある政府と対立しながら新基地建設反対を貫いた翁長知事の遺志を受け継ぎ、埋め立て土砂の投入を許さない決意を見せた。

知事職務代理者の謝花喜一郎副知事が、埋め立て承認撤回に向けた手続きの状況や生前の知事の考え方などを説明。土砂投入計画の撤回などを求める大会決議を採択する。宛先は首相や防衛相、外相、米大統領、駐日米国大使など。

詳しくはあすの紙面、電子新聞 沖縄タイムス+ でお読みください。 http://www.okinawatimes.co.jp

2018 年 8 月 11 日に奥武山公園陸上競技場で開催された「米軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する県民大会」は忘れられない。沖縄入りした日に翁長雄志知事の訃報を知った。私達は台風が迫る激しい風雨の中、喪章を付けて県民大会に参加した。東京に戻ってもしばらく、その喪章は手帳に挟んで持ち歩いた。

翁長雄志知事の訃報を知った豊岡マッシーさんが、居てもたってもいられなくて描いたという絵。『あなたの勇姿を忘れない』。県民大会で被るはずだったエメラルドグリーンの帽子を被った翁長雄志知事の絵は、その後、画面を通して何度も目にした。

■沖縄各地

南風原の有川中将以下将兵自決の豪のすぐ裏に熊野鉱山がある。土砂採掘の工事のダンプが通るすぐ隣りに豪が広がっている。豪には立ち入りは出来ず、入り口付近から覗いても深い豪だった。

魂魄の塔には､｢この地は今次大戦でも一番の激戦地であり､日本軍も住民も追いつめられて逃げ場を失い､陸､海、空からの攻撃を受けて、敵弾にあたって倒れた屍が最も多い激戦地の跡である。戦後、真和志村民が収容移住を許された所で村民及び地域住民の協力によって、道路、畑の中、周辺いたる所に散乱していた遺骨を集めて祀ったのがこの鎮魂の塔である。」と記されている。

渡嘉敷島には、「伊江村民収容地跡記念碑」があった。碑には「太平洋戦争末期の昭和 20 年 4 月 16 日米軍は伊江島に上陸､同年4月21日に占領され奇跡的に生き残った村民約2100人は捕虜となりナガラ原に仮収容される。同年 5 月に米軍が占領後の戦場整理として渡嘉敷村へ約 1,700 人、座間味村へ約 400 人が移送され、それぞれの地に収容される。以来昭和 21 年 7 月まで伊江村民が渡嘉敷村民にご迷惑をかけながら耐えがたい日々を共に生きてきた苦難の歴史の地である。戦後 50 周年を記念しこの碑を建立する」とある。

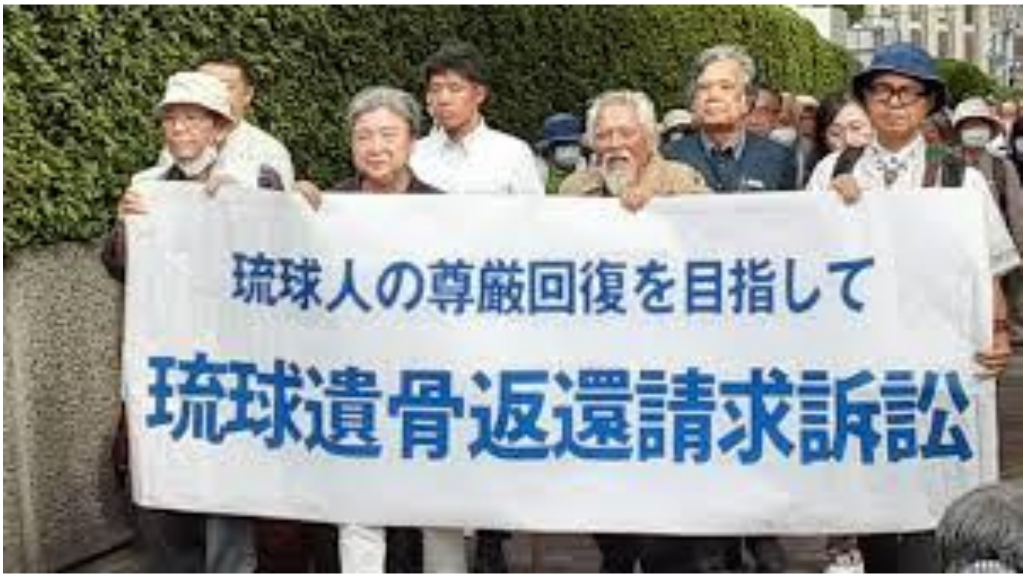
コザの古本屋の店主の案内で、商店街にある沖縄市戦後文化展示資料館ヒストリートに行った。コザ騒動・コザの街の米兵たち・ベトナム戦・戦後の住民の写真などをみてきた。戦後まもない頃、こどもたちは手榴弾で遊ぶことがあり、事故も多発していたという。店主の店に戻り、庭に自生していた植物の名を尋ねると、「シマオオタニワタリ」だと教えてくれ、店主は、その子株とシマ野菜の種を持たせてくれた。

読谷の集会で紹介された人は、母の従兄弟と同じ集落出身で叔父のことを知っていた。沖縄にきて、試行錯誤し、失敗もしたが、今は、ドラゴンフルーツを作って「ヤマトからも若い子たちがボランティアにくる」と話していた。

■東京･大阪･沖縄･奄美

東京では､「デジタルでよみがえる８ミリの沖縄｣､｢むかしむかしこの島で｣､｢神々の深き欲望｣､｢洗骨｣､｢イザイホ｣､｢パイナップルツアーズ｣､｢吉屋チル一物語｣､｢沖縄を返せ｣､｢水どぅ宝｣､｢骨を掘る男｣､｢オキナワへ行こう｣､｢だからよ一鶴見」沢山の映画に出会った。

練馬駅前での「りっかりっか練馬フェス」という、沖縄と奄美の歌と踊りのフェスや、ライブハウスでの島唄ライブを友人達と企画し、開催してきた。



琉球遺骨返還請求訴訟裁判には、大阪まで傍聴に通った。大阪高裁の控訴審判決は棄却となったが､(大島裁判長退官の為）代わりの裁判長によって「本件は、沖縄地方の先住民族である琉球民族に属する控訴人らが～」「持ち出された先住民の遺骨はふるさとに帰すべきである」との付言が読まれた。裁判所によって、初めて「琉球人は先住民族である」と認めたのだった。

一昨年、昨年と身近な人が続けて亡くなった。それもあって「いつでも会える訳ではないのだ」と無沙汰をしていた、白鷺の叔母（母の妹）の家に通うようになった。叔母はコーヒーを淹れながら「今のうちに話しておかなくちゃいけないことが沢山ある」と昔を語りだす。｢おじいちゃんは船乗りだったから、他所にも女の人がいてね。ばあば（おばあちゃん）は、苦労した。沖縄のひとには２人、こどもがいてね。２人とも警察官になった」「ばあばはね、(孫の中で）あなたのことを一番に可愛がっていた。いつもあなたの話しをしていた。心配もしていたのよ」。わたしの友人にも沖縄に異母兄弟がいる。沖縄と奄美の間ではこんな話は珍しくもないのだろう。

【文化欄 映画】『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』

「戦死」と言っても色々ある《死に方》について考えさせられる映画　　佐藤えり



2025 年の 11 月号にみんなで感想文を書いた映画『宝島』ですが、その『宝島』を観に行ったときに予告編が流れていた作品の一つが『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』でした。原作漫画の方は読んでいませんが、戦争モノなのに可愛らしいキャラクターというギャップで「どんな作品なのかな？」と気になったのと、主人公の田丸くんの声を板垣李光人くん（かっこいい♡）が演じていることもあり、「今度はアレ観よう♪」と昨年 12 月 11 日（木）池田編集長と一緒に観に行ってきました。

平日夕方 18 時前〜の上映で、映画館全体もそれほど混雑していなかったけど、『ペリリュー』を観にきているのは私たちを含めても 15 人くらいで閑散としていました。（年末に池袋の三省堂を覗いたら、ペリリュー関連の書籍が平積みにされているコーナーがあったので、この映画が全然話題になっていないということもないと思うのですが…。）私たち以外は一人で観にきてる人ばかり。女性は私の他に一人だけで、男性がほとんどだけど、年齢層は 20 代〜70 代？…年齢層が高めだった『宝島』に比べてバラバラな感じだったので、「みんなはなんでこの映画を観にきたんだろうね？」と池田編集長に訊くと、「『お付きの爺やを連れた和服の女性はなんでこの映画を観にきているんだろう？』って、みんなは思っているよ」とのこと…なるほど、＜なんで＞はお互いさまなのね。

「でも、李光人くんと中村倫也くんのファンのオバサンたちがいっぱい観にきてるのかと思ったら、そうでもないねー」…って、池田編集長！　まずは、なんで私が＜爺や＞に＜オバサン＞呼ばわりされなければならないの？　今更「そういう意味で言ったんじゃないよー」とか言っても遅いし、それに、そもそも「李光人くんのファン＝＜オバサン＞に決まってる」みたいな発想が李光人くんに対して失礼なんですよ！

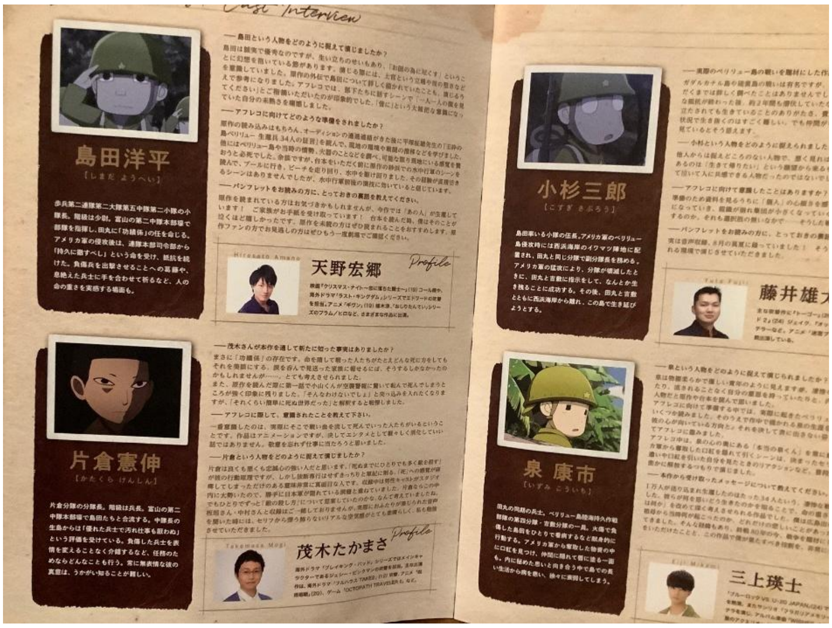
…そういうわけで、もし実写版で李光人くんが田丸くんを演じたら、かっこよくなりすぎてハマり役にはならないかなと思いますが、声での出演は李光人くんも、田丸くんの戦友の吉敷くんを担当した中村倫也くんも、それぞれのキャラクターにハマり役だったのではないかと思います。

以下は、ストーリーを追いつつ（そのためネタバレする内容も含む）作品についての感想です。

主人公の田丸くんが「亡くなった仲間の最期の勇姿」を遺族に伝える手紙を書く功績係に任命される、という展開は予告編から知っていたのですが…功績係となる以前に、田丸くんは小山くんと共に「洞窟掘りで役に立たないから」という理由で、根本軍曹から炊事係に任命されます。それで、一番最初に死ぬのは小山くん。田丸くんと一緒にリヤカーで食糧を運びながら「お父さんみたいに、名誉の戦死を遂げたい」と語っていた小山くんだけど、小山くんの死因は、スコールで濡れた地面で足を滑らせ、岩に頭を打ったため…という《衝撃の死に方》でした。暇を見つけては手帳に絵を描いている田丸くんが、島田少尉から創作力を買われて功績係に任命されるのは、この小山くんの死の直後というタイミング。そのため、《小山くんのまさかの自滅》ではない、遺族に伝

えるための「小山くんの最期の勇姿」を書いているうちに「まるで作り話みたい」と思うところから、「小山くんに伝えられた『お父さんの名誉の戦死』」にも疑問を持つ田丸くん…。

田丸くんが「一緒に生きて帰ろうね」と約束をする戦友の吉敷くんと出会うのは、西浜海岸の戦い。吉敷くん、米兵を前にすると、漫画みたいな活躍ぶり！パンフレットにも吉敷くんは「小銃の射撃が上手く、銃剣の扱いも巧み」と書いてあるけど、『ルパン三世』の次元大輔&石川五右衛門を一人でやってる感じ！！！でも、このシーンも、米軍による攻撃で死んでいくだけでなく、死にかけの角田上等兵の銃の暴発で死ぬ根本軍曹もいたり…「そんな《死に方》アリなの？」みたいな描写がありました。結局、同じ分隊では、吉敷くん&田丸くんの他には、小杉伍長だけが生き残ります。向かってくるアメリカの戦車に「特攻」を命じていた根本軍曹が死んで、ホッとしているのが小杉伍長です。「俺は特攻なんてごめんだね。お前らは勝手に玉砕するか、俺についてくるか、好きにしな」と言う小杉伍長に、吉敷くん&田丸くんはついていくことに…。吉敷くん&田丸くんは「猟師」&「漫画家」というアダ名を小杉伍長に付けられます。（この西浜の戦いのシーンで「池ちゃんは＜小杉伍長推し＞でしょう？」と思っていたのですが、観終わったあと話していたら、やっぱり＜小杉伍長推し＞でした。）



ここまでの戦死者がバタバタと出る戦闘中・戦闘後のシーンも、それから、このあとの負傷者が収容されている洞窟のシーンも、描写はかなりエグいです…キャラクターは可愛らしいけど。可愛らしいキャラクターたちの中に、不気味なキャラクター＝片倉兵長が登場したのが、負傷者の洞窟のシーンでした。「死ぬまでにひとりでも多く敵を殺す」だけでなく、負傷した日本兵も表情ひとつ変えずに淡々と介錯していく片倉兵長は殺人鬼みたい。（あとで、池ちゃんは「片倉兵長は本当はもっと身分が上なのに、身分を偽って他の兵士を監視してるヤツ」だよ」と解説していたね。）

負傷していない生き残り兵も、食糧不足に悩まされていきます。まずは、既に壊滅した隊の備蓄米を運ぼうということになるのですが、ここでも空腹のあまり足元がフラついて不発弾を踏んで自滅したり、米軍の艦砲射撃を受けたり…色々な《死に方》をする仲間たちが出る中、バラバラになりかけた吉敷くん&田丸くん。なんとかお互いを見つけたところで、米兵に出くわして、いつものように漫画みたいな活躍ぶりの吉敷くん&その吉敷くんのピンチを辛うじて救う田丸くん…。さらに食糧不足が深刻化していきますが、島田少尉が＜戦果アギャ（？）＞のリーダーとなって、米軍の物資を奪取することに成功すると、生き残り兵たちは笑顔を見せる余裕も出てくるようになっていきます。吉敷くんは「母親と妹と一緒に撮った写真がボロボロになる前に」と絵を描くことを田丸くんに真っ先に頼んでいたけれど、イラスト描きを「田丸画伯」に依頼する生き残り兵たちが他にも現れ始め、食糧の余裕がそんな余裕にも繋がるのね…という感じでした。それと、＜戦果アギャ（？）＞のリーダー島田少尉が、みんなから慕われるようになるほどに、上官から妬まれるようになるという変化もありました。（このシーンで、池ちゃんは「島田少尉は嫉妬した上官に殺されるのかと思った」そうです。）

もちろん、負傷だけでなく、病気で苦しむ生き残り兵もいて、その一人が島田少尉に恋する泉くん。＜戦果アギャ（？）＞をやっているとゴミの中から新聞を見つけて「ひょっとして戦争は終わっている？」と悩み始める生き残り兵たちだけど、島田少尉や片倉兵長が「投降なぞ絶対に許さん！」と圧をかける重たい空気の中で、吉敷くん&田丸くんは「治療も受けられるなら、投降は泉くんのためにもなるよね？」と、病気に苦しむ泉くんのことも考えて、投降に気持ちが傾いていきます。吉敷くん&田丸くんの企てを察した泉くんは、二人の気持ちもわかりながら、恋する島田少尉に報告してしまって、投降に向かおうとした吉敷くん&田丸くんは、島田少尉・片倉兵長らに見つかってしまいます。でも、絶好のタイミングで、どこからともなく手榴弾が落ちてきて、その

隙に逃げる吉敷くん＆田丸くん。そして投降に向かうはずなのに、なぜか「とりあえずの習慣で」銃を拾っていく吉敷くん。

手榴弾の犯人は…小杉伍長でした！犯人の目星をつけた片倉兵長に「支給された手榴弾を見せろ」と詰め寄られ、「はいはい、見せますよ」と言いつつ、服で隠した銃で振り返ることなく片倉兵長を撃つ小杉伍長！！このシーン、それまでと違って、なんか意外にカッコいい小杉伍長！！！なのに、トドメを刺さなかったばかりに、負傷しながらもナイフで反撃してきた片倉兵長の返り討ちに…。（「池ちゃん、この《死に方》も含めて絶対に＜小杉伍長推し＞でしょ」と確信！　でも、面白い＜オッサン＞キャラだと思っていた小杉伍長、あとで調べたところ、27歳設定でした…池田の＜爺や＞の失言をとやかく言えない…。）

小杉伍長のナイス・アシストで逃げた吉敷くん＆田丸くんだけど、手榴弾で足止めされたはずの島田少尉に先回りをされてしまい、吉敷くんと島田少尉がお互いに銃を向け合って対峙‥。敵兵相手なら漫画みたいな活躍をする吉敷くんは、「この距離なら100%命中させられる」ところにいる島田少尉を撃つことができず、「撃ってくれ」と呟き、その言葉を聞いてしまう田丸くん。島田少尉が撃った銃弾は吉敷くんの顔面の右側へ…。でも、島田少尉の方も手榴弾で既に満身創痍のため、田丸くんは吉敷くんを連れて（途中、飛び出して落ちそうになる吉敷くんの右の眼球を押さえながらも）、どうにか投降に成功します。だけど、「一緒に生きて帰ろうね」という二人の約束は果たされず…。

『八木や』さんで飲みながら、池ちゃんは「日本に帰る船で『この裏切り者！』って誰かに海に突き落とされて、田丸くんも死ぬのかと思ったー」とか言っていたけど、さすがにそれはなかったです。田丸くんが生き残る結末に「ドラクエ（ドラゴンクエスト）のステータスにも『攻撃力』『守備力』『素早さ』『体力』『賢さ』以外に『運の良さ』ってあったなぁ」と思い出しつつ、《小山くんのまさかの自滅》に始まり《島田少尉の放った銃弾が致命傷となる，吉敷くんの死に方》に至るまで、《敵兵との殺し合いで命を落とすだけではない死に方》について考えさせられた映画でした。

この作品については、まだ池田編集長としか感想を話し合えていないので、読者の方で「この映画を観た」「原作漫画を読んだ」という方がいらしたら、感想を寄せてくださいね。（「ペリリュー島を訪れて、地面に刺さったままの墜落機を見てきたことがある」というK原さん！　作品をご覧になったら是非！）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



池田の趣味的観点から

片倉憲伸分隊長は、どう見たって陸軍中野学校出だ！　小野田少尉と同じく持久戦＝ゲリラ戦に持ち込む密命を帯びていたに違いない。沖縄スパイ戦史でいえば、学校の先生だと思っていたら、実は中野学校出の軍人。それが住民を戦わせ続け、スパイだと殺す。そんなスパイを作るのは諜報機関。国家情報局創設は、その第一歩。陸軍中野学校と言えば市川雷蔵だけど、片倉の陰険さからすると実写版だと誰かな？　浪岡一喜か。

池田推しと佐藤さんにも見透かされた小杉三郎伍長。正義感でなく厭戦的なのが僕の好みだ。ただただ妻を想っている。私生活優先が反戦に通ず。だけど、田丸君・吉敷君を助けるために片倉を殺そうと一肌脱いでしまい、逆に殺されてしまう。ドジだね。そのドジさがこれまたいい。「なんで俺って、貧乏クジひいちまうの・・・」って自嘲する感じ。絶対、正義の味方にはなれないし、なる気もない。実写版なら吹越満で決まり。あのヤサグレ感を出せる若手俳優は思いつかない。

ところで、日本の委任統治領だったことから追う植民地支配責任の観点は弱い。日本領で皇軍天皇のために戦い続けた激戦地故に天皇時代のアキヒト“慰霊の旅”先だった。この作品についても、愛子が激奨しているとか･･･。

余談だけど、ところでペリリューと言えば、ゾルゲ事件関係者の鬼頭銀一。彼は、1903年に三重県に生まれ（池田と同郷だ！）、25年にアメリカに渡りそこで共産党に入党、31年に上海で日本の特高に検挙されている。鬼頭は「上海ゾルゲ機関」の有力メンバーであり、30年末にゾルゲと尾崎を出会わせた端緒となったのも、ゾルゲ・尾崎秀実の死刑判決にあるアメリカの作家アグネス･スメドレーではなく鬼頭であったと言う人もいる。鬼頭は、37年にはペリリユー島で雑貨店を始めるが、38年に訪ねてきた30歳前後の男にゆであずきの缶詰をすすめられ、間もなく苦悶し息絶えてしまう。米の諜報員か日本の特務か、スターリンの手先によるものか・・・不明。

ところで温暖化でペリリユーはどうなっているのかな。ナウル住民はついにオーストラリアへ移住開始。移住先での差別も既に問題になっているけれど・・・。

【読者の声】　　稲垣容子

ゴリさん　いつもニュースを送ってくれてありがとうございます。

お父さんお母さんが亡くなられたこと、三か月分のニュースを持って広島に行く船の中で知りました（すいません、なかなか読めなくって）。ずっと通われたこと、お疲れさまでした。えりさんの言葉から、ゴリさんお父さんお母さんに愛されとったんやなと。

東京にいたころ、「動員」で行った集会で聞いた「琉球弧」。自分の中でつながり始めました。ニュース私には難しいことが多々あるけど、「あれっ、これってアクションにあったやん」って後になって思ったり。普段人と話す機会が少ない私には重要なニュース源です（なのに3か月もためとく？）。まあそれでも昔知ってたと人と再会したり、ゆっくりしたペースやけど私が私でいられるようになった。言葉の違いって40過ぎたころから大きなって、定年になる前に西に行きたいと思ってた。

昨日ノーモア沖縄戦えひめの会で愛媛から沖縄に移住した人の話聞いた。米軍機から部品落下があった緑が丘保育園に勤めてる人と、沖縄・南京をむすぶ会として加害の歴史を学び謝罪する人と。スマートニュースで政府専用機が松山空港でタッチアンドゴーをしてたというのを21日見て（地元テレビ）、驚愕したけど、誰も知らんかった。私はそこで特定利用空港として松山空港が検討されてるって初めて知った。ああ、せやったんか。今治造船の買収も軍事産業化していくんやないかと気にせなあかんらしい。港も軍艦が遊びに来るらしい。

去年の夏は、智啓さん、松永さん、阿部ちゃん（注：以上、練馬原水禁のメンバー）、皆ちゃんと広島から知覧、水俣、長崎。卓球の早田ひなが「知覧特攻平和記念館に行きたい」と言ったのを阿部ちゃんは知らんかったね。私は言ったの知ってたけど、行って初めて意味が分かった。水俣も。

秋に死刑廃止合宿（広島）に行って（そのときも2か月分ためてたけど）、むかしの東京の仲間（獄中者組合）に再会。彼女と話して人間ってつながるもんやなと。12月は再審事件の忘（望）年会があって大阪・十三で泊まった。横哲さん（注：横山哲也さん。戦争に協力しない！させない！練馬アクションのメンバー。2024年に逝去）の冊子にあった店に行ったけど、残念ながらやってへんかった。1月はまた広島へ。「山谷ーやられたらやりかえせ」を見てきて（ああこれが3か月分のニュースやった）。ついでにいとこの家へ。早く死んだ（私が小学3年）父方の方であんまり会ってへんけど、叔父ちゃん好きやってんやけど。って言うてる場合やないかな。

ニュースの感想？　小野くん（注：第7号【戦争・戦後体験を読み直す①】他参照）がいるのがうれしい！（私は横哲さんと小野くんがどこで一緒にいたか知らないけど）。横哲さんのあの日（注：横山哲也さんを偲ぶ会）、会えたっていうのが一番！　藤田さんも渥美さん（名前合ってるかな？）（注：「米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する実行委員会」のメンバー）もおって。ゴリさんは主催者側だったので大変やったやろうけど、あのガツガツと弁当を食ってる人たちの隣で私も安心して食えました。私は読んだことない「広島ノート」読んでみよっと。

つむぎちゃん（彼女うちらー小野くん含めーよりちょっと若い？）の本（注：第6号表紙、第7号【自著紹介】参照）、明日こそ解放書店に電話かけるぞ。山谷の夏祭りでシートの畳み方を教えてもろた。たぶん福岡の筒井がかわいいと言ってた。うん彼女はかっこよくてかわいい。素敵やねえ。

浜田省吾も知りたくなったなあ（注：第7号参照）。

あと親たちの戦後。広島の伯父が原爆にあって府中の実家で療養しとったのは知ってるけど（私が知ってるのは府中家具を作る人やった）。父が兄を書いた日記があるらしいけど、どこにあるか分からない。おじたちはみんな死んでるけど、いとこたちに会って（一番下が12上やから70か）聞いとかないかんなとは思ってる。聞けたら寄稿するね（いつのことやら）。

私は江頭（注：江頭純二さん。死刑廃止運動）に「個別と全体は両輪や」と教わった。労働運動でも死刑廃止運動でもおんなじやと。まあ死刑廃止運動はさまよったと思うことはあるけど（中にいたからね）。太田さんがいるから取り戻してくれたかなあ。

なんかことあるごとに思う。横哲さん、堀さん（注：部落解放同盟練馬支部長。2025年に逝去）。練馬って大きい地やったんやと。

今後もニュース楽しみ（？）にしてます。

今日の菊池事件の再審開始認めない決定。司法に正義（この言葉普段使わんけど）はないって分かってても、悔しいなあ。まあ、お互いやれることをやりましょう。返信はいらんで。ほな、また。

【科学哲学への招待⑧】ゲーデル『不完全性定理』(林晋／八杉満利子 訳･解説、2006年、岩波文庫)



「終わらないものはない　―すべては有限！―」…そう思って、本当はやりたくないけどやらなければいけないこととか気の進まない仕事をやることってありますよね？　大学受験予備校の冬の季節労働も終わりました…。例年通り、年末年始はみんな基本的に＜12月15、16日頃〜12月30日まで仕事して、1月2日〜6日までまた仕事＞だったのですが、最終日の6日、横浜校舎で帰り際に「お疲れさまでした。良いお年を……あれ？なんか違う？」と挨拶した同僚がいて、みんなに「大丈夫か？」と心配されながら笑われていました。「お互い、やっと終わったね…」という気持ちはよく伝わる挨拶でしたが、どう考えても疲れ果てていましたよね？　ラッセルに抗うから…。過酷な労働をするべきではないんですよ。

過酷な季節労働は終わったけど、その一方で、本の整理のように、「終わらないものもある　―無限のものもある―」のかもしれない…と思うこともありますよね？　藍苑の本棚も既に本が収まりきらなくなっていますが、藍苑のみんなも「家の本を整理しようとしたんだけど、結局どれを処分していいのかわからなくなって諦めた」と言う人ばかりだし…。6日の仕事終わり、池田編集長と神保町で待ち合わせていたのですが、また二人とも本を買って増やしているし…。池田編集長は目的の本を1冊買っただけでしたが、私の方はネットで手に入らない本があって、20年ぶりくらいに明倫館書店（アクション科学哲学会のみなさんならご存知の書店なのかな？）に行ったら、目的の本以外にも「ここにアレもあった！コレもある！」と＜ついで買い＞をしたくなってしまい…「アレもコレも」と本を積み重ねていたところ、池田編集長に「そんなに運んで帰れないでしょ？！」と言われて、その日買うのは5冊に絞りましたが、今度は筋トレ大好きなSくんたちにも来てもらって運んでもらうのがいいかもしれないですね。

そして話は全く変わりますが、本屋さん巡りのあとに行ったギャラリー&カフェバー『klein blue　(クラインブルー)』、くつろげる素敵なお店でした。でも、＜飲食は有限の価格で消費と浪費をするだけでいい＞という方にはあまりオススメできないかも…。味覚も含めて感覚は人それぞれですが、『klein blue』の空間でゆっくりとコーヒーを楽しみながら本を読んでいる人や『八木や』さんで「美味しいっ！」と声に出してしまっている人を見ると、＜飲食に見出すことができる無限の価値に投資したい＞という仲間を見つけたような気がしてホッとします。

…前置きが長くなりましたが、今回は有限と無限の問題に大きく関わる「不完全性定理」のお話です。アクション科学哲学会のW部さん、お待たせ致しました♪（先日の藍苑での「アクション科学哲学会のオフ会」、楽しかったです。オフ会のときに目を通していただいた原稿、W部さんのアドバイスを受けて少し修正を加えました↓ またオフ会を開きましょうねー！）

クルト・ゲーデル（1906年4月28日―1978年1月14日）はオーストリア・ハンガリー帝国出身の数学者・論理学者・哲学者で、1930年に発表した「完全性定理」、翌年に発表した「不完全性定理」、1940年に発表した「ヒルベルトの連続体仮説に関する証明」がゲーデルの三大業績と言われています。その中でも、数学基礎論とコンピュータ科学の重要な基本定理である「不完全性定理」は、その分野で20世紀最大の発見とも言われるものです。

当時の数学界の大御所ダフィット・ヒルベルト（1862年1月23日―1943年2月14日）は、集合論における矛盾（パラドックス）を生じさせないようにすることを目的として「ヒルベルト・プログラム」と呼ばれる数学の形式化を提唱していました。集合論における矛盾の一例としては、前号で言及した「ラッセルのパラドックス」があります。たとえば、「＜藍苑にいる人＞で＜自分で料理を取り分けない人＞すべてに対して、＜藍苑のオーナー＞は料理を取り分ける」という命題では、＜藍苑のオーナー＞は自分で自分に対して料理を取り分けるのか、取り分けないのか、どっちなのか…となってしまいます。このように、＜藍苑にいる人＞という＜集合＞に＜藍苑のオーナー＞自身を＜要素＞として含まないと仮定しても、含むと仮定しても矛盾が生じてしまい、「証明も反証もできない命題」、「真であるとも偽であるとも言えない命題」となってしまうという集合論における矛盾が「ラッセルのパラドックス」です。

そうした矛盾を回避しようという試みが「ヒルベルト・プログラム」で、数学の証明において使われる推論を単純に記号の操作として捉えること、つまり証明の形式化によって、数学の無矛盾性と完全性を証明しようとし

ました。そのため、「数学を論理学の一部と見なし、数学は論理学へ還元することができる」とするラッセルが「論理主義」と呼ばれる立場なのに対して、ヒルベルトは「形式主義」と呼ばれる立場になります。

本書の解説を引用すると、

「**ヒルベルトのテーゼ**：　現実の『数学の理論』は，数理論理学の概念である形式系により，忠実に再現されるので，数学の理論について語るには，形式系についてかたれば充分である．つまり，『形式系』という言葉で『数学の理論』という言葉を置き換えてもよい．」

を立てて、ここから

「**第1段階:ヒルベルトのテーゼの基礎付け**　現実の数学を形式系というコピーに写し取る．以後，数学の実体は忘れ，このコピーを数学本体とみなす.

第2段階:無矛盾性の証明　形式系の無矛盾性，つまり，どの命題もそれ自身とその否定が同時にその体系内で証明されることがない，ということを示す．これにより，自己矛盾することがないという意味で，数学の絶対的安全性が保証される.

第3段階:完全性の証明　形式系の完全性，つまり，『どの命題についてもそれ自身かその否定のどちらかがその形式系で証明できる』ということを示す．これにより，数学の問題は常に解決できることが判り，その意味で数学が完全無欠であることが示される．」

という３段階を遂行するのが「ヒルベルト・プログラム」と整理することができます。「ヒルベルト・プログラム」は、有限の対象を有限の操作で有限の時間内に終了するアルゴリズムしか認めないという「有限の立場」で数学を基礎付けようとしたという特徴があり、この「有限の立場」のために「ヒルベルト・プログラム」は「不完全性定理」によって否定されることになります。

ただ、「ヒルベルト・プログラム」に対しては、ラッセルやサイバネティクスの創始者として知られるノーバート・ウィーナー（1894 年 11 月 26 日−1964 年 3 月 18 日）ら初めから懐疑的な視線を向ける数学者もいる一方で、推進しようとする支援者や協力者も多数いました。「自然数論では**第2段階**の無矛盾性は証明されたから、次は実数論で…」という推進派の流れの中で、ゲーデルも「ヒルベルト・プログラム」をハナから否定するつもりではなく、「実数論で**第2段階**を…」と推進するつもりで研究をしていたところ、研究の成果、「不完全性定理」で「ヒルベルト・プログラム」の限界を指摘することになりました。

「不完全性定理」は、「ヒルベルト・プログラムの**第3段階**」を否定する「**第一不完全性定理**」と「ヒルベルト・プログラムの**第2段階**」を否定する「**第二不完全性定理**」からなりますが、先述の通り、いずれも「ヒルベルト・プログラム」が「有限の立場」であるために生じる限界を指摘する定理となっています。

まずは、ペアノ算術と呼ばれる自然数全体を扱う公理系がありますが、「ペアノ算術の公理を含むいかなる公理系も、それが無矛盾ならば形式的に不完全である」というのが「**第一不完全性定理**」です。無矛盾であれば「ペアノ算術から独立な命題が存在して、その命題が自然数の世界において真である」ということになりますが、「有限の立場」で認められる仕方でペアノ算術を拡張しても、そうした命題は常に存在します。そのため、命題が真であると判断するために用いられている論法が公理系という形式では捉えられない…という限界を指摘したのがこの定理です。こうして「**第一不完全性定理**」によって「ヒルベルト・プログラムの**第2段階の上での第3段階**」は成り立たないことになってしまいました。

次いで、「ヒルベルト・プログラム」にとってより深刻な「**第二不完全性定理**」ですが、これは「ペアノ算術の公理を含むいかなる公理系も、もしその公理系が無矛盾ならば、その公理系の論法だけを使って自分自身の無矛盾性を証明できない」という定理です。仮に「有限の立場」でペアノ算術の無矛盾性が証明できたとすると、「有限の立場」をペアノ算術の中に算術化することにより、「ペアノ算術の無矛盾性をペアノ算術の中で示すことができる」ということになるため、「**第二不完全性定理**」に反することになります。ほとんどの数学理論は自然数論を含むため、「有限の立場」の「ヒルベルト・プログラム」では数学を基礎付けることができない…ということになってしまうわけです。このようにして「第二不完全性定理」によって、「ヒルベルト・プログラム」は「**第2段階それ自体**が無理でしょう」ということに…。

つまるところ……W 部さんと私がメールで「『有限の立場』にこだわると失敗する」という話をしていたのは、こういう話だったのですが、わかりましたか？池田編集長？

今回は＜3 分で読んでわかったような気になる「不完全性定理」＞のコーナーみたいになりましたが、本書にはゲーデル自身の論文だけでなく、「ラッセルのパラドックス」と類比しながらの論文解説の他、「ヒルベルト・プログラム」や「不完全性定理」をめぐる歴史的経緯も含めた詳細な解説も付いているので、コンピュータ科学の基礎にご興味のある方もご一読くださいね。池田編集長も、＜3 分で読んでわかったような気になる「不完全性定理」＞を読んでもまだこんな顔((((；゜Д゜)))))))をしているのなら、当時は無名の 25 歳のゲーデルに夢を破られた 69 歳の大数学者ヒルベルトの悲劇の歴史物語として、解説の方だけ読んでも面白い本かもしれませんよ。（ゲーデルの人生、晩年の展開もなかなかですけどね…。）

佐藤えり

【編集部より】

どうして「戦争に協力しない！させない！練馬アクション」のニュースに「科学哲学」のコーナーがあり、数学史の本の紹介が掲載されるのか、いぶかる方も多かろう。

まず、「科学哲学」のコーナーを設けたのは、トランプの言う「先進的な軍隊」を支えるテクノロジー、量子技術や AI といったもの－高市の「危機管理投資」の対象でもある—の根底にある科学哲学について関心を持ってもらいたいからだ。そして今回の数学だが、“数学と反戦”ということで思い起こす個人的なある方との出会いがある。それは、福富節夫さんとの出会いだ。福富さんは、ベトナム戦争に反対する数学者の懇談会からベ平連へと活動され、80 年代、90 年代の反安保や反天皇の運動にもコミットされていた。マルキストでない自由で批判精神に富んだ福富さんに、非暴力・不服従の意義など、たくさんのことを学ばしていただいた。あの自由闊達さは、どこかで「不完全性定理」に通じていたのではないだろうか。そんなことを今回の論考で考えさせられた。樺太に生まれ、平賀粛学の頃に学生で、軍隊では暗号研究をやり、フィリピンで死線を彷徨・・・いろんな話を聞かせていただいた。だが、ご専門の数学がその反戦の思想と実践にどう関連していたのか、ちゃんと聞けないままになってしまった。“数学と反戦”—誰かこのテーマで研究している人いませんか？

〔編集後記〕

２月８日の総選挙結果から立ち直れない読者も少なくないのではないだろうか。初めて「特集」を事前に構想した。だが、「今こそ高市にもトランプにも NO!を」としたものの、作成過程で想定した以上の総選挙の結果で、「特集」の体をなさなくなったしまった感は否めない。編集会議の開催もなかなか上手くいかないが、次号は今号と重なるけれども「高市訪米・日米首脳会談反対」を「特集」のテーマにしたいと考えている。次次号は、「「昭和 100 年」政府式典に異議アリ」はどうかと思案中だ。

なお、本誌にとっての朗報もいくつかあった。まず、「読者の声」が届き、掲載できたこと。それから「科学哲学」コーナーの熱心な読者の方とオフ会ができた。誌面と誌面を媒介とした直接的な交流の場創りを進めていきたい。

【宣伝】 キャンパスからのお誘い

■現代イスラエルとアメリカのコロニアリズムの構築と再生産

２月 20 日:明大和泉キャンパス図書館ホール　２月 23 日:東京ジャーミー　14:00～17:00
映画「イスラエル主義」上映＆解説・ディスカッション

■運動史から学ぶ読書会

２月 28 日　武蔵大学 1203 教室（1 号館2階）
第Ⅰ部　鶴見俊輔を社会運動につなぎ直す　10 時～12 時
第Ⅱ部　地域ベ平連と模索者　13 時 30 分～17 時